

わかもと製薬株式会社

2024年3月期決算および中期経営計画説明会 質疑応答要旨

Q1: 従来の経営理念にあった「セルフメディケーション」という言葉が落ちているが、それは貴社が OTC 分野から医療機器分野へ展開しようとすることを意味しているのか。

A1: 当社創業の社名は「栄養と育児の会」であり、人々が元気で生き活きとした姿になって欲しいということが創業の理念です。祖業である強力わかもとに注力し、それに加えて医療機器分野へ展開してまいります。今回定めた経営理念「人々の健康で生き活きとした生活に貢献」という理念の中には、セルフメディケーション、OTC が含まれています。セルフメディケーション、未病 (QOL) という意味での人々への貢献をしっかりと続けていきたいと思っております。当社は眼科領域にコミットメントをしていますが、人間は情報の 80%以上を目から得るともいわれ、QOL という観点からも高齢化社会が進展するなかで白内障、緑内障といった目の疾患を寛解させたいというニーズは上昇することはあれ下降することはないでしょう。今後はこういったニーズに対して眼内レンズという医療機器分野においてもこたえていこうとするものであります。

Q2: 中期経営計画の中では「内外の乳酸菌に対する需要」にこたえていきたいとありますが、わかもと製薬の乳酸菌事業における強みは何か。

A2: 当社は現在では約 1,200 株の乳酸菌ライブラリーを保有しております。こういう乳酸菌を原材料として利用したいという内外からのニーズが非常に高いということでもあります。一方、当社の強力わかもとは、ビール酵母を圧搾して製品化したところからはじまっています。その後、微生物培養法という製法を使ってビタミン B2 を製品化することに成功し、耐性乳酸菌という、抗生剤に対して耐性を付与した乳酸菌を開発・販売いたしました。こういう当社の菌株、培養技術、製剤技術を活用して、今後、様々な機能性表示食品、あるいは医薬品、食品、化粧品に活かしていきたいと考えています。

Q3: 「強力わかもと」の増産を決めたとのことだが、供給がどのくらい需要に追いついていないのか、今後の見通しはどのくらいなのか。そういったことを踏まえると、今回の増産は「儲かる」投資と考えられるのか。

A3: 今回の増産検討は、中計同様、一年近くの間をかけた投資を決定した。国内消費の需要、輸出の需要、インバウンド需要、さらに越境 EC での需要、これらに供給が追いついていないということで、お客様には大変申し訳ない思いではありますが、このたび、機器メーカーとの協働もあり、操業停止期間が短く早期に立ち上げることが可能な計画ができました。この投資計画では 30%近い増産が見込まれ、収益の高い事業投資でもありと考えております。